

田中研新聞

第133号

2024年
6月3日発行

甲南大学知能情報学部田中研究室 ほぼ毎月発行
http://carnation.is.konan-u.ac.jp
編集責任 田中雅博

Robomechに参加

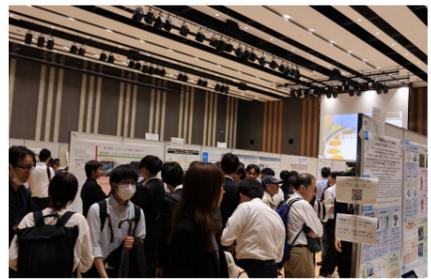
初めて宇都宮に行きました

5月29-31日



このロボメックという講演会は、機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門主催のため、会員ではない田中はロボメックは従来あまり行っていないから、(共催学会の会員なら、会員価格で参加可能)、所属する、計測自動制御学会(SICE)のユニバーサルデザイン応用(UDX)部会がオーガナイズセッションを設け、その審査員もしなければならぬことになりました。今回、参加することに決めた。開催地宇都宮に行ったことがなかったというところからかと思いましたが、理由の一つです。

Robomechについて
毎日、午前、午後それぞれ2、3回ずつ、ポスター発表のセッションがあります。ポスターは、大ホールに一杯ポスターが掲示され、聴衆も非常に多くの人が入りました(写真参照)。通路を通るのが困難なほどです。ポスターの前に行く、大抵は誰かに説明中ですが、聞きたい人はその人の話が終わる瞬間に質問することにより、説明を受ける主導権を得ます。たまに、手持無沙汰な発表者がいますが、ここで人がほとんど



Robomechに参加
多くのポスターはよく書かれてはいますが、やはり話を聞かないとよくわかりません。私は審査した論文は少なくとも自分から「説明をお願いします」と、自分のペースで発表者の話を聞きました。その印象は、入っているものが多いで

宇都宮は、在職最後の年によく行きました。東京からは、やまびこ号に乗って50分ほどです。やまびこ号は仙台行きですが(下の写真の緑色)、山形行きのつばさ号と連結し、17両で運用されています。それにしても、E5系の天狗の鼻のような醜態なフォルムに、緑とピンクという、ありえない色の組み合わせが私には非常に違和感があります。皆さんはどのように感じでしょうか(と聞いてお感じでしょうか)。JRとバスで、片道1時間少しです。

宇都宮は、在職最後の年によく行きました。東京からは、やまびこ号に乗って50分ほどです。やまびこ号は仙台行きですが(下の写真の緑色)、山形行きのつばさ号と連結し、17両で運用されています。それにしても、E5系の天狗の鼻のような醜態なフォルムに、緑とピンクという、ありえない色の組み合わせが私には非常に違和感があります。皆さんはどのように感じでしょうか(と聞いてお感じでしょうか)。JRとバスで、片道1時間少しです。

北に軍配が上りますね。私は、N700系などの発泡スチロールのような硬い感触のシートが嫌いです。

宇都宮は駅を挟んで東と西に分かれており、中心は官公庁や城跡のある西側です。しかし、東側には、今回の学会が開かれたライトキューブが隣接しており、また、新型の路面電車であるライトレールも走っています。多くの人が利用していました。

宇都宮といえば、餃子ですね。私も、滞在中、2回食しました。私は学生時代から、王将の餃子に学生時代から今までずっと慣れ親しんできたせいで、どうしてもそれと比べてしまいがちです。味はまあ大差なさそうですが(王将のほうが好きですが)、なんととっても、宇都宮のものは値段が高いですね。さらに、どうしてこんなに多いのかと思うほど、宇都宮には餃子の店がたくさんあります。

栃木県に来る機会は今後も逃したくないと思いつつ、宇都宮には餃子の店がたくさんあります。

5月17日 田中教授、シルバーカレッジでの最後の授業を行いました

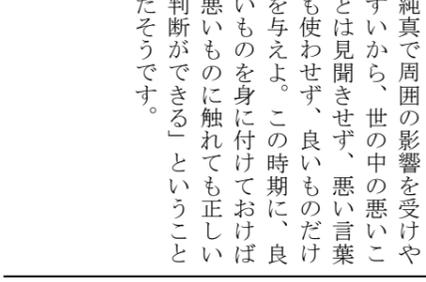
北区のしあわせの村にある、神戸市シルバーカレッジの健康福祉/ライフコースの情報の授業1年、2年向けの年間担当として、この日の2年生の授業を最後に、引退することになりました。

ChatGPT、Gemini、Copilotを実際に動かしたときの比較をしながら、高齢者が使いやすいような多くのケースを想定してデモをしました。また、スマホアプリ版のChatGPTを実際に動かして、私がしゃべった内容をプロンプトにして、対話をデモンストレーションしたところ、大盛り上がりでした。途中で英語をいきなり話

しましたが、きちんと英語で答えが返ってきて、皆さん大変驚かれました。次回12月頃の1年生の講義を依頼されましたが、それに続く、来春の2年生の授業がもうできないため(岡山からの交通費が出ない)、今回の2年生の授業を最後ということになりました。

シルバーカレッジの職員 川崎さんには、いつも

この日の授業は大変盛り上がりでしたが、名残惜しい思いでしたが、楽しいときを終わるといのが美学と心得て、お別れしました。今後は、同じく知能情報学部の和田昌浩先生に引き継いでもらうことにしました。ご成功をお祈りします。



私の審査対象ではないがなじみのある某国立大学からの発表があったので、質問してみた。最低限の答えしか返ってこず、それ以上のこともやっとなさそうだった発表を1つ聞いてしまいました。

教員が発表しているものも数多くありましたが、やはり研究にかける時間が短いのが災いしているのか、学生がやっているものと

宇都宮は、在職最後の年によく行きました。東京からは、やまびこ号に乗って50分ほどです。やまびこ号は仙台行きですが(下の写真の緑色)、山形行きのつばさ号と連結し、17両で運用されています。それにしても、E5系の天狗の鼻のような醜態なフォルムに、緑とピンクという、ありえない色の組み合わせが私には非常に違和感があります。皆さんはどのように感じでしょうか(と聞いてお感じでしょうか)。JRとバスで、片道1時間少しです。

宇都宮は、在職最後の年によく行きました。東京からは、やまびこ号に乗って50分ほどです。やまびこ号は仙台行きですが(下の写真の緑色)、山形行きのつばさ号と連結し、17両で運用されています。それにしても、E5系の天狗の鼻のような醜態なフォルムに、緑とピンクという、ありえない色の組み合わせが私には非常に違和感があります。皆さんはどのように感じでしょうか(と聞いてお感じでしょうか)。JRとバスで、片道1時間少しです。

宇都宮は、在職最後の年によく行きました。東京からは、やまびこ号に乗って50分ほどです。やまびこ号は仙台行きですが(下の写真の緑色)、山形行きのつばさ号と連結し、17両で運用されています。それにしても、E5系の天狗の鼻のような醜態なフォルムに、緑とピンクという、ありえない色の組み合わせが私には非常に違和感があります。皆さんはどのように感じでしょうか(と聞いてお感じでしょうか)。JRとバスで、片道1時間少しです。

宇都宮は、在職最後の年によく行きました。東京からは、やまびこ号に乗って50分ほどです。やまびこ号は仙台行きですが(下の写真の緑色)、山形行きのつばさ号と連結し、17両で運用されています。それにしても、E5系の天狗の鼻のような醜態なフォルムに、緑とピンクという、ありえない色の組み合わせが私には非常に違和感があります。皆さんはどのように感じでしょうか(と聞いてお感じでしょうか)。JRとバスで、片道1時間少しです。

ロボットの関係の学会として、今回のRobomech、ロボットの学会講演会、計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会などがありますが、これらの共通の特徴は(1)参加者が若い、(2)日本語で発表(外国人の多くも日本語でやっている)、(3)ポスターセッションでの割合が非常に大きい、(4)企業からの参加が多いという特徴があり、成功していると思えます。

対極として、英語で全部発表する学会(一応ここでは名前伏せします)もあります。これは、学会の国際化を目指して、あるときからと、ずっと国際会議として学会が運営されています。

学会を英語で運営(発表、ディスカッションとも)することにしているのは、賛否両論があるのは当然でしょう。

学会の開催方法

私の考え

表・議論の場とするのなら英語化は反対です。英語にしようとする、わからない細かい専門用語が格段に増えます。質問しようにも、「英語で人前でするのはちょっと」という日本人は非常に多いのではないのでしょうか。大学進学率が50%を超えている現在、大学教育は大衆化しています。ここで、「大学生なら英語が話せるべき」という理想を言っても意味がないでしょう。その分野に入らばかりの学生は、それだけでなく、さらに英語だったとしたら、もう、黙るしかないという学生は多いと思います。実質的な議論や情報欲が強い企業の人、ほとんどの聴衆が日本人で、お客も日本人を対象にしているのに、よく知っていることをわざわざ英語にして、自分も四苦八苦、聞いていられる方もほとんどわからない単語ばかりを聞かされては、興味もわかないことではないでしょうか。

そんな無理をしなくても、学問を、あるいはその成果を自分にわかる言葉で理解することはきわめて重要です。ここで議論を深めたら、その技術がさらに発展したり、自分のところの技術として応用できるかもしれないかもしれません。その成果の発表の場としての学会です。

この意味で、ロボットの関係の学会はいいですね。若い人が元気に参加できます。産業界の人が学問的成果を比較的容易にもものにできます。つまり、日本の産業に貢献しているのではないのでしょうか。それは、膨大な参加者が物語っています。

